



『中米の知られざる風土病「シャーガス病」克服への道』



著者 橋本謙
発売日 2013年2月21日
出版社 ダイヤモンド社



「シャーガス病」とは、中南米特有の寄生虫症で、サシガメという吸血性カメムシ（昆虫）を媒介虫として人間が感染する病気です。中南米諸国では患者数が800万人とも900万人とも言われ、多くの住民を苦しめてきた風土病ですが、日本ではほとんど知られていません。

本書は、中米地域で1990年代末から今日まで実施されている風土病「シャーガス病」との闘いの歴史を、その前身で1975年からグアテマラで開始されたオンコセルカ感染症研究対策協力をまですかのぼり、30年以上の長期にわたってたどったものです。サシガメの生態の研究と分布状況の解明にはじまり、家屋に棲みついているサシガメを駆除し、ついでその再発生を抑え込むための監視体制を中米各国に築くまでの技術協力の足跡を、グアテマラ、ホンジュラスでの経験を中心に描きました。

JICAのシャーガス病対策協力の特徴として、広く複数の国にまたがる協力であること、そして、多くの青年海外協力隊員が参加したことが挙げられます。日本から派遣された協力隊員は、地方の保健事務所スタッフと集落を巡回し、家屋での調査やサシガメ駆除とともに行われる住民向け啓発活動やデータ処理などに強みを発揮しました。

著者の橋本氏自身も、2000年に青年海外協力隊員としてグアテマラに赴任し、以後JICA専門家として中米のシャーガス病対策に取り組んできました。

本書は、JICA研究所の「プロジェクト・ヒストリー」シリーズ第6弾として発刊されました。

中南米に派遣された元 JICA ボランティアの皆さま

国内シャーガス病集団検査にご協力下さい！

日本国内で、ラテンアメリカ人を対象に、シャーガス病の集団検査が行われています。在日ラテンアメリカ人コミュニティと三浦左千夫・日本赤十字社技術顧問らによる、集団 *T. cruzi* 抗体検査と成人病検査で、今後以下の日程で開催される予定です。

4月20日	厚木（Escola Aqualero）
5月25日	飯田（長野）
6月22日	長岡（新潟）
7月20日	伊勢崎（群馬）
8月24日	中央市（山梨）
9月21日	上田市（長野）
10月26日	大泉（群馬）

スペイン語やポルトガル語を話せる方、シャーガス病対策に関与された方を求めています。今までも元シャーガス病協力隊員が参加し、活躍しました。

在日ブラジル人を対象とした血清調査では、1.9%が陽性とでた経緯もあります。シャーガス病の集団検査は、患者の治療と母子感染の防止につながります。

三重県を中心に「シャーガス病患者を守る会」（仮称）がNPO発足準備中です。ボリビア中央協会と三重多文化共生課職員（個人参加）による動きです。

これら集団検査またはNPO支援にご協力いただける方は、三浦左千夫先生 (miuraska@hotmail.com) までご連絡をお願いします。

（橋本謙）

中米の風土病<シャーガス病>との闘いと青年海外協力隊 -協力隊員は現場で何を見て、どう行動したのか- 《ゲスト紹介》

橋本 謙 (はしもと けん)



独立コンサルタント。三重県出身。2000年に青年海外協力隊員としてグアテマラに赴任し、以後、汎米州保健機関（PAHO）グアテマラ事務所技術顧問、JICA ホンジュラス・エルサルバドル技術協力プロジェクト専門家など、中米シャーガス病対策の専門家を歴任。2012年 JICA 中米シャーガス病対策広域アドバイザー。著書『中米の知られざる風土病「シャーガス病」克服への道』（2013年、ダイヤモンド社）

山内 志乃 (やまうち しの)

ホンジュラス派遣隊員（2004～06年）。西部コパン県の保健地域事務所（フロリダ市）配属。職員のストライキで現地活動が進まない中、地域で最も子供の血清陽性率が高いカリサロン村で啓発活動をやろうと決意。地元の保健ボランティアとともに各世帯を戸別訪問し、サシガメ対策と感染予防を説いてまわるとともに、詳細な訪問記録をフィールドノートとして残した。

溜 宣子 (たまり のりこ)

ホンジュラス派遣隊員（2006～08年）。西部オコペテケ県保健事務所配属。同時期に他県に派遣されていた隊員とともに、創作劇を制作。観客を巻き込みながらサシガメ探し、捕獲、保健所への届出、住居改善などを訴える社会劇は好評で、計3県で8回の公演を開催。台本は後輩隊員の間でも活用された。2008年、同国再派遣（1年間）。

江越 健太郎 (えごし けんたろう)

グアテマラ派遣隊員（2009～11年）。東部チキムラ県に派遣され、予算不足や政治情勢に左右されながらも、同僚らへの技術研修や住居改善マニュアルの導入、サシガメ届出キャンペーンの実施、同僚らと共同での過去データの見直しなどに取り組み、遅れ気味だった同県でのサシガメ監視体制の構築に尽力。現在、海外事業も手掛けるエンジニアリング会社に勤務。

谷口 翠 (たにぐち みどり)

エルサルバドル派遣隊員（2010～12年）。西部アウアチャパン県保健事務所配属。サシガメ届出・患者確認の際の対応手順書を作成し、県医療関係者への研修を行ったほか、教育省の協力を得て、タクア市の公立学校34校で「地域活動クラブ」創設、生徒によるサシガメ監視を働きかけた。地元のお祭りでもブース出店や出し物により、シャーガス病の認知度向上に努めた。

小笠原 禎 (おがさわら ただし)

ホンジュラス派遣隊員（2004～06年、07年）。西部コパン県の県都サンタ・ロサ・デ・コパン市を拠点に、県南部地域で保健事務所が行う、血清検査、サシガメ生息調査、殺虫剤散布活動に同行して、同僚、地元ボランティアとともに村々を訪ね歩いた。予算制約により現場での活動が困難になると、啓発活動やシャーガスグッズ製作にも尽力。現在 JICA ジュニア専門員。

